

CIインサイトレポート

－乾癬－

【目次見本】

§ レポート全体概要

調査対象疾患	乾癬					
調査ポイント	<p>・経口剤 …… 新規薬剤「オテズラ」の評価と処方動向を徹底検証！</p> <p>・生物学的製剤 …… 相次ぐ上市により供給過多も懸念、シェア争奪の激化必至 ⇒ ⇒ ⇒ <u>将来的に臨床上で必要な（残る）薬剤を徹底予測！</u></p> <p>・新薬開発 …… 重要性が再認識された経口剤 等 新薬開発の方向性を徹底解明！</p>					
対象疾患（種類）	尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症					
対象薬剤	既存薬	経口剤	PDE4阻害剤		オテズラ（アプレミラスト）	
			抗TNF		レミケード（インフリキシマブ）、ヒュミラ（アダリムマブ）	
		生物学的製剤	抗IL-12/23		ステラーラ（ウステキマブ）	
			抗IL-17		コセンティクス（セクキマブ）、ルミセフ（ブロダリマブ）、トルツ（イセキマブ）	
	開発薬	新規	生物学的製剤	抗IL-23		CNTO1959 グセルクマブ、ABBV-066 リサンキズマブ、SCH900222/MK-3222 チルドラキズマブ、LY3074828 (Mirikizumab)
				抗IL-17		CDP-4940 (Bimekizumab)
				抗TNF		インフリキシマブ BS、アダリムマブ BS
		経口剤	JAK阻害剤		ABT-494 ウパダシチニブ	
			TyK2阻害剤		BMS-986165	
		適応拡大（生物学的製剤）		シムジア(セルトリスマブ ペゴール) 等		

§ Part別概要

調査種類	Part I データ分析編	Part II 定量調査編	Part III KOLヒアリング編
調査手法	(オープンソースを基にした) データ分析	インターネットによるWEB調査	深層面談調査
調査対象医師 (対象医師数)	-	乾癬の専門医 ◆ Bio User 103名 (治験参加医含む) * ◆ Bio Non-user 100名 (計 203名)	乾癬のTOP KOL <関連学会理事・代議員> (3名)
調査対象施設・ 診療科	-	皮膚科HP/GP	皮膚科HP
調査内容	<p><既存薬> プロファイル、作用機序・特性、薬価、販売高推移、臨床試験、関連論文</p> <p><開発薬> プロファイル、作用機序・特性、臨床試験、関連文献</p> <p><その他> 注目企業動向、学会情報</p> <p><別添> 抄録集 (関連論文)</p>	<p>< Bio User > [対象：生物学的製剤] ・ 所属施設の薬剤採用状況 ・ 疾患別処方状況 (1st 等) と薬剤別評価 ・ 開発薬の認知度・評価・上市後の処方意向 ・ 今後、臨床上で必要な薬剤数と薬剤 ・ 生物学的製剤全体の今後の処方動向 等</p> <p>< Bio Non-user > ・ オテズラの処方動向と薬剤評価 ・ オテズラの前治療と中止要因 ・ 生物学的製剤承認施設への申請予定 ・ 新薬開発の必要な剤型 ・ 経口剤の新薬開発の際に重視する内容 等</p>	<p>[対象：生物学的製剤] ・ 所属施設の薬剤採用状況 ・ 疾患別処方状況 (1st 等) と薬剤別評価 ・ 疾患/薬剤別今後の処方動向 ・ 開発薬の評価 ・ 今後、臨床上で必要な薬剤数と薬剤 ・ 今後の疾患別第一選択薬 ・ 疾患別今後の生物学的製剤の処方動向 等</p> <p>・ オテズラの処方動向と薬剤評価 ・ オテズラが及ぼす生物学的製剤の処方動向への影響度 ・ 新薬開発の必要な剤型 ・ 関節症性乾癬に対するリウマチ専門医との医療連携 等</p>
調査実施時期	2017年11月～2018年1月		
体裁/頁数	Part I・・・PPT (or EXCEL)、Part II & III・・・PPT / A4 計約420ページ (報告書本編のみ、別添は含まない)		
レポート価格	フルセット<3パート> 180万円 (税別)		

* Bio User 103名の内、抗IL-23製剤の治験に参加している医師 21名

< Part I データ分析編 目次 >

§ 調査概要	3		
I. 既存品	4	IV. 学会情報	48
1. プロファイル	5	1. 日本乾癬学会	49
2. 作用機序・特性	10	2. 日本皮膚科学会	56
3. 薬価	18	3. 日本皮膚科学会東部支部	64
4. 販売高推移	23	4. 日本皮膚科学会中部支部	69
5. 臨床試験 (UMIN)	25	5. 日本皮膚科学会西部支部学術大会	75
6. 臨床試験 (JAPIC)	29	6. 日本皮膚科学会東京支部学術大会	78
II. 開発品	32	7. 日本臨床皮膚科医会	81
1. プロファイル	33	8. 日本研究皮膚科学会	85
2. 作用機序・特性	37	9. 日本リウマチ学会	90
3. 臨床試験 (JAPIC)	40	V. 関連文献	92
III. 注目企業動向	42	1. 単剤・既存薬	93
1. ヤンセンファーマ株式会社	43	2. 単剤・開発薬	112
2. アヅヴィ合同会社	45	3. 複数	114
3. 日本イーライリリー株式会社	47		

< Part II 定量調査要約編 目次 >

§.調査概要	3
§.回答者プロフィール	4
§.総括	5
§.要約	12
1) 乾癬患者の診療状況	13
2) オテズラの評価・処方動向	19
3) 生物学的製剤の評価・処方動向	26
4) 開発薬の認知状況・処方意向・期待内容	40
5) 今後の生物学的製剤の処方動向	51
6) 新薬開発の方向性	66

* 各ページ右上の **Bio User** **Bio Non-user** はその設問の対象医師を示す

< Part II 定量調査結果編 目次 >

	ページ	Bio User	Non-user		ページ	Bio User	Non-user
§.調査概要	3						
§.回答者プロフィール	4	●	●				
§.調査結果	5						
1) 乾癬患者の診療状況	6			4) 開発薬の認知状況・処方意向・期待内容	98		
1.診療患者数	7	●	●	1.抗IL-23製剤の治験参加状況	99	●	
2.疾患別診療患者数	8	●	●	2.薬剤別認知状況	100	●	●
3.重症度別患者数	12	●	●	3.薬剤別処方意向・期待度	109	●	●
4.薬物療法・光線療法実施状況	16	●	●	4.薬剤別期待するポイント	124	●	●
2) オテズラの評価・処方動向	38			5) 今後の生物学的製剤の処方動向	135		
1.疾患別製品評価	39	●	●	1.疾患別治療薬・第一選択薬として適している薬剤種類	136	●	
2.処方増加が見込まれる疾患・重症度	42	●	●	2.処方薬剤を決定する際に重視する内容	141	●	●
3.オテズラから生物学的製剤に切り替える患者割合	44	●	●	3.今後臨床上で必要と思われる薬剤数	152	●	
4.オテズラの処方動向による生物学的製剤の増減	46	●		4.今後臨床上で必要と思われる薬剤	153	●	
5.オテズラの前治療別処方状況	47		●	5.生物学的製剤全体の今後の処方動向	158	●	
6.オテズラの処方中止状況	52		●	6.生物学的製剤承認施設への申請予定	162		●
3) 生物学的製剤の評価・処方動向	58			7.処方意向がある薬剤	163		●
1.乾癬治療において採用している薬剤	59	●		8.国内全体の生物学的製剤の処方動向	165		●
2.疾患・薬剤別処方状況	60	●		6) 新薬開発の方向性	168		
3.第一選択薬を決定する際に重視する内容	68	●		1.新薬開発の必要性が高い剤型	169	●	●
4.疾患別第一選択薬	75	●		2.経口剤の新薬開発の際に重視する内容	174		●
5.有効性を評価する際に重視する内容	78	●					
6.満足度が得られる薬剤	81	●					
7.処方数の増加が見込まれる薬剤	87	●					
8.薬剤選択の際に参考にするチャネル	90	●	●				

* 各ページ右上の **Bio User** **Bio Non-user** は
その設問の対象医師を示す

< Part III K O Lヒアリング編 目次 >

§ 調査概要	3
§ 調査対象医プロフィール	5
§ 総括	6
§ 調査結果	
1. オテズラの評価	13
2. オテズラの今後の処方動向	14
3. オテズラから生物学的製剤に切り替える患者の割合	15
4. オテズラの処方動向による生物学的製剤の処方への影響	17
5. 生物学的製剤の薬剤別採用状況と処方状況	18
6. 生物学的製剤の採用決定時の重視ポイント	19
7. 疾患別生物学的製剤の処方状況	20
8. 生物学的製剤の薬剤別評価	23
9. 疾患別生物学的製剤の処方増加が見込まれる薬剤	26
10. 開発薬の評価	27
11. 生物学的製剤の採用及び臨床上で処方する際の重視ポイント	31
12. 将来的に臨床上で必要な生物学的製剤の薬剤数	33
13. 疾患別今後の生物学的製剤の第一選択薬	36
14. 疾患別今後の生物学的製剤全体の処方動向	38
15. 今後新薬開発が必要な剤型	39
16. 関節症性乾癬に対するリウマチ専門医との医療連携	40
17. 乾癬治療に対する地域医療連携の現状と今後の方向性	41
18. 国内の生物学的製剤承認施設の方向性	42